

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成27年4月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所 属 部 局 物質－細胞統合システム拠点

職 名 拠点長

氏 名 北 川 進

助成の種類	平成26年度・社会連携助成		
事業名	「対話カトレーニングが実現する真に双方向な国民との科学・技術対話活動の展開」		
実施期間	平成26年 4月 1日 ～ 平成27年 3月31日		
実施場所	京都大学iCeMS、京都大学CiRA、科学フェスティバル会場(日本科学未来館、うめきた・グランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル)など		
参加者	総数 約720人	内 訳 「成果の概要」参照	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(活動の報告冊子など)		
会計報告	事業に要した経費総額	3,114,331 円	
	うち当財団からの助成額	2,600,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) WPI運営経費、戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	デザイン・制作費 (ポスター・教材のデザイン・印刷など)	1,110,712	1,002,712
	消耗品 (活動で使用した教材など)	95,725	95,725
	消耗品 (文房具や機材など)	172,506	166,692
	謝金・雇用	948,539	948,539
	旅費	441,790	259,060
通信運搬費	76,648	71,772	
請負費 (イベント設営や翻訳など)	241,800	55,500	
その他 (情報収集のための学会参加費や音声書き起こし費など)	26,611	0	
合 計	3,114,331	2,600,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 幅広い人々が参画できるような社会連携活動を実施するには、すぐれたデザインが必要である。今回の助成は、場のデザイン、広報媒体のデザイン、教材やワークショップツールのデザインなどを洗練させるために活用させていただいた。また、様々な層の人々にアプローチするための新しい試みも実施することができた。貴財団の助成を活用することによって、より質の高い活動を実施することができたと思われる。		

## 成果の概要

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)  
科学コミュニケーショングループ

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)は、本助成事業を活用し、平成 26 年度中に以下の科学コミュニケーション活動を実施した。

### 1) 成人&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
iCeMS ミニ展示会「imagination」	2014年 4月21-25日	京都大学 iCeMS 本館 2F 交流ラウンジ	-
サイエンスアゴラ 2014 へのブース 出展「夢ビジョン 2020 展示会～徹底的に『みんなの夢』を語ろう～」	2014年 11月7-9日	東京国際交流館 国際交流会議場 (サイエンスアゴラ 2014 内)	500人

約1万人が参加した「サイエンスアゴラ 2014」という科学フェスティバルにおいて、「2020年の日本の将来像」「みんなの夢」といった、科学とは一見関係のないテーマを掲げ、低関心層の人々をもひきつけることを目指した。参加者から得られたコメントは申請者らが集約し、科学技術イノベーションにつながる・つなげる“種”として政策担当者などに伝えた\*1。普段は科学にあまり関心のない人々にアプローチするための方法を模索するため、ファッションと科学を融合させるアート作品の展示会を試験的に開催した\*2。

2) 青少年&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2014 SUMMER」内のワークショップとして実施	2014年 8月10日	うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル内ナレッジプラザ	13人
親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2014 Autumn」内のワークショップとして実施	2014年 11月21-22日	うめきた・グランフロント大阪北館4階 ナレッジキャピタル内バブリックスペース	47人
親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2015 SPRING」内のワークショップとして実施	2015年 3月28-29日	うめきた・グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル内カフェラボ(1階)、ナレッジシアターホワイエ(4階)	50人

商業施設グランフロント大阪内で開催されたフェスティバルの一環として、親子を対象としたワークショップを実践した。NHKの理科教育番組を活用した「科学の考え方」を学ぶことができるワークショップだった。一連の活動は、第2回ナレッジイノベーションアワード・コト部門 優秀賞を受賞した\*3。

3) 青少年&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
高校生向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2014: 幹細胞研究やってみよう! まずは観察から」	2014年 11月29日	京都大学 CiRA 講堂	85人

高校生向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2014」には、近畿地方を中心に全国の67校の高校から、146人の応募があった。その中から85人が参加した<sup>\*4</sup>。

4) 成人&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
シンポジウム「大阪発! 2020 オリンピックイヤーへの夢ビジョン~科学技術イノベーション政策にモノ申してみた~」	2014年 4月29日	うめきた・グランフロント大阪 北館タワーC 8階 ナレッジキャピタル、カンファレンスルーム (Room 01+02)	53人
科学技術イノベーションをテーマとしたボードゲームの開発	2014年10月-2015年3月	-	-

科学技術イノベーション政策をテーマに掲げたシンポジウム型対話イベントを企画した<sup>\*5</sup>。これは、参加者とともに「2030年にこうであってほしい」という日本の社会の将来像に関して議論をし、アイデアをまとめ、文部科学省の担当部署に届けるというところまでつながった活動(H25年度分の活動)の一連の流れをより多くの人々と共有するためのものだった。会場からの動画配信も行った。

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成26年度 社会連携助成  
「対話力トレーニングが実現する真に双方向な国民との科学・技術対話活動の展開」

注釈

\*1：開催当日の様子は、サイエンスアゴラチャンネルで公開されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=PQ1KeTjRO-I>

添付資料 1 参照。

\*2：開催報告は iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2014/05/16-icems-1.html#report>

添付資料 2 参照。

\*3：受賞タイトル：NHK×滋賀大学×京都大学 NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ、受賞者：「考えるカラス」連動ワークショップ実行委員会（加納圭、水町衣里、元木環、ヘイチクパベル、岡本雅子、佐々木孝暢、竹内慎一）。

<http://kc-i.jp/award/innovation/vote/entry-A-011.html>

添付資料 3 参照。

\*4：開催報告は CiRA のウェブサイトに掲載されている。

<http://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/pressrelease/seminar/141216-084420.html>

添付資料 4 参照。

\*5：開催当日の様様や関連した取組の報告書は、PESTI プロジェクトのサイトで公開されている。

[http://www.pesti.jp/home/event/event/20140429\\_knowledgecapital#TOC--](http://www.pesti.jp/home/event/event/20140429_knowledgecapital#TOC--)

添付資料 5 参照。

<https://sites.google.com/a/pesti.jp/main/home/hello/tool#TOC-Vol.-1->

添付資料 6 参照。